

## 6. ソーシャルメディアにおける発言の内容分析に基づく 4歳児をもつ母親の育児情報ニーズの可視化

○井田 歩美（関西福祉大学看護学部）

猪下 光（岡山大学大学院保健学研究科）

### I. はじめに

インターネットの普及とともに母親が育児に関する情報収集や意見交換のために、ソーシャルメディアを利用することは日常的となった。

本研究の目的は、4歳児をもつ母親がソーシャルメディア上で発言した内容を分析し、母親の育児情報ニーズを明らかにすることである。

### II. 研究方法

1. 研究対象：株式会社ベネッセコーポレーションが管理・運営する『ウィメンズパーク』内会議室「4歳児ママの部屋」において2011年4月から2012年3月までに書き込まれたもの3,317件である。
2. 分析方法：分析には、Text Mining Studio4.2を使用した。母親の発言内容から単語出現頻度をカウントし、特徴的な単語は係り受け頻度解析により分析した。
3. 倫理的配慮：倫理的配慮として、発言内容は個人の特定できない単語として切片化した上で分析を行った。なお、本研究は、ベネッセとの情報提供に関する契約を締結し、岡山大学大学院保健学研究科看護学分野倫理審査委員会での承認を得て実施した。

### III. 結果

単語の出現頻度は、「幼稚園」「娘」「子」「息子」の順に多く、次いで「自分」と他者である「友達」「先生」といった単語が多く出現した。これらの単語を含む発言内容を係り受け頻度解析により分析した結果、「幼稚園」には「行く+したくない」「行く+ない」といった単語が、「自分」には「いる」「やる」「嫌」といった単語が係り受けられていた。

### IV. 結論

4歳児をもつ母親の育児情報ニーズは幼稚園に関連するものが多く、子どもが通園を嫌がることをはじめ園での様々な出来事に困惑している母親の様子が明らかとなった。一方で、「自分」という言葉を中心に語られる内容からは、子どもが自己主張することに悩むと同時にそんな我が子にうまく関われない自分を嫌悪する母親の様子が明らかとなった。さらに、「友達」や「先生」といった言葉には子どもを通した幼稚園をはじめ家族以外の他者との人間関係に悩む母親の様子が明らかとなった。以上より、4歳児を持つ母親に特徴的な育児情報ニーズは、子どもの社会性発達に関連したものが多く、同年齢の子どもをもつ母親の経験談をふまえた具体的なアドバイスを求めており、専門職者がいつどのように介入すべきかの検討が今後の課題である。

（本研究は、平成26～28年科学研究費助成事業基盤研究（C）を受けて実施した）